

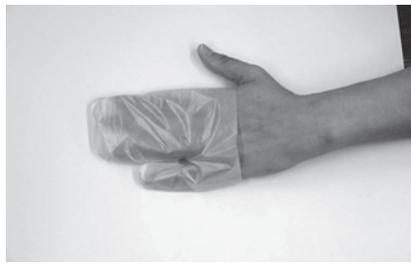
問 乳がん自己触診 手袋の配布拡大を

答 手袋活用で乳がん検診の受診勧奨



公明党
おかざき さとる
岡崎 悟 議員

問 乳がんは、日本人女性が一番多く発症するがんで、自分で発見できる唯一のがんでもある。本村は乳がん検診受診率が県内第1位（平成27年度～29年度）で、検診意識が高い。よって、乳がん自己触診手袋を使つてのセルフチェックの習慣化が取り組みやすいと考える。本村は、この4月から「赤ちゃん教室」で、乳がん手袋の配布を始めた。このセルフチェックの必要性を、若い年代を含め幅広い年代に周知し、使い方を指導を実施し、女性の



乳がん手袋によるセルフチェックの習慣化を

命を守る乳がん自己触診手袋の活用を進めていただきたい。

答 子育て中の女性は、忙しさから検診や体のケアを後回しにする傾向がみられる。今後は母子保健事業の参加者だけでなく、20代から60代の女性を対象に開催している「女性の健康づくり講座」等、女性が集まる講座において、手袋による自己触診の手法を丁寧に伝えながら、手袋の配布を通し、さらなる乳がん検診の受診勧奨を図る。

問 母子健康手帳アプリの 運用は

答 引続き積極的な周知に努める



公明党
うえき しんじ
植木 伸寿 議員

問 母子健康手帳のアプリ（電子化）は母親だけでなく父親にも好評のようである。どのようなものか伺う。

答 アプリは、冊子の母子健康手帳と同等の内容を記録することができるほか、妊娠週数や子どもの月齢に合わせた情報の提供、予防接種の自動スケジュール、そして、日々の成長日記としても家族で共有できることから、父親の育児参加を促す効果も期待できる。また、村HPにある子育て応援ポータルサイトで「のびのび子育て帳」



日々の成長記録としても活用できる母子健康手帳アプリ

とも併せて案内しており、好意的な反応がある。

問 子どもの視力改善に向けた取り組みは。

答 母子保健法に則り3歳児健診時に視力検査を実施。何らかの問題があれば眼科を受診するよう勧奨し、早期に治療を開始できるように万全の体制を整えている。

問 弱視などの診断を受けた子どもに対する支援は。

答 医師の指示で弱視用のメガネなどを作った9歳未満の子どもを対象に、限度額はあるが保険適用分が医療福祉費として払い戻しが可能となる支援がある。